

広大から海外へ留学していた若手からの便り

南カリフォルニア大学（USC）留学便り

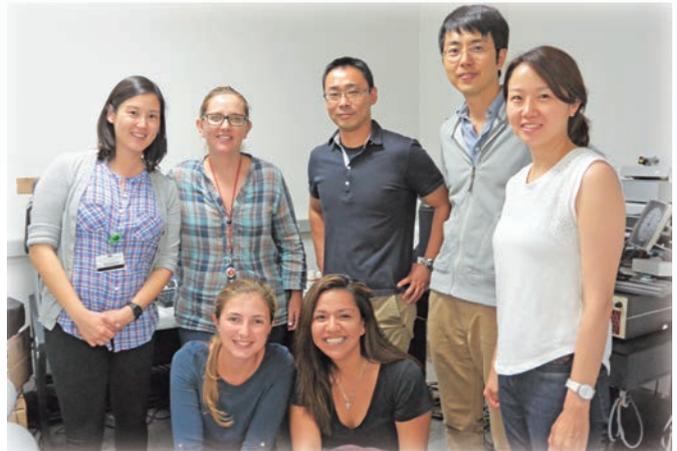
土井 俊樹 広島大学病院 泌尿・生殖器診療科 腎臓内科 助教

2015年6月より2年間、米国カリフォルニア州ロサンゼルス南カリフォルニア大学（USC）でJanos Peti-Peterdi先生の研究室にお世話になりました。研究室はロサンゼルスのダウンタウンに近いHealth Science Campus内にあります。

Janos先生は生きたままのマウスの腎臓を多光子顕微鏡で観察するin vivo imaging の権威であり、在籍する研究者はフランス、イギリス、ハンガリー、インド、韓国などの出身で、国際色豊かでした。Janosラボの規模自体は決して大きくはないのですが、周りの研究室や他施設との交流が多く、様々な共同研究を多く行っています。国際色豊かなことと、様々な研究室間のやりとりの中から独創的なアイデアが生まれるように感じました。ここで学んだ研究姿勢を広島大学で生かしていきたいと思っています。

家族とともに渡米し、小学生の子供たちは全く英語のできない状態でした。しかし、一年も経つと現地の親友を作り、しばしば友人宅へ泊まりに行くようになりました。帰国してからもメールやスカイプでアメリカの友人との交流を楽しんでいます。家族での渡米は困難なこともありましたが、家族で力を合わせて乗り越え、休みには国立公園を回り、家族の絆は深まったように思います。

最後になりましたが、留学の機会を与えていただき、貴重な経験をさせていただいた広島大学病院腎臓内科 正木崇生教授ならびに医局の先生方に心より御礼申し上げます。



研究室メンバーと一緒に（筆者右から2番目）

編集後記

BHS ニュース第12号も、関係各位のご尽力で円滑に発刊することができました。ご多用のところ、原稿を執筆してくださった先生方に感謝申し上げます。

今年もテロを含めて世界情勢にいろいろな動きがあり、米国、欧州、韓国などいくつかの国では指導者も代わっています。その中で特に北朝鮮のミサイル問題を身近に感じるが多かったのではないのでしょうか。我が国は同盟国である米国のパートナーとして、またアジアのリーダーとして、その立場や行動が問われていると言えます。平和を希求する精神を有する我々にとって、隣国が起こす理不尽な騒動に巻き込まれず、当たり前のように日々変わらず自分達の研究が遂行できることを望みます。

そのような毎日の中、霞キャンパス構成員の日々たゆまぬ努力による成果をBHS ニュースによってお届けすることが、有益な情報を共有することに寄与していると思います。さらに、かつては分かれていた病院や施設がいくつか統合され、構成員同士が必然的に近くなり、以前にも増してより交流しやすくなったと感じています。本広報誌の情報が互いを刺激し合い、異分野間の交流、発展に一層つながれば、一広報委員として幸いに感じます。

さて、今年もわずかとなりましたので、2018年が世界にとって、構成員の皆様にとって良い年になるよう祈念いたします。

2017年11月 広報委員 上田 宏

2017年（平成29年）11月発行

編集発行 広島大学大学院医歯薬保健学研究科広報委員会

住所 〒734-8553 広島市南区霞一丁目2番3号

電話 (082) 257-5013（霞地区運営支援部総務グループ）

E-mail kasumi-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

URL <https://www.hiroshima-u.ac.jp/bhs>